

平成28年度

事業報告書
決算報告書

公益財団法人 福島県保健衛生協会

平成28年度事業報告書

東日本大震災、そして原発事故と続き、以来6年の歳月が過ぎ去ったが、本県の復興は未だ道半ばである。当協会の健診受診率も、今もって震災前の数に戻っていないというのが現状である。一方、平成28年度は、当協会が公益財団法人に移行して5年目に入るとともに、昭和51年に財団法人として創設され40周年を迎える記念の年となった。

平成26年度から導入した健診に関する新情報システムが全面稼働し、受付業務、結果処理、請求業務等がスピーディに行われることとなり、実施主体や受診者に、さらに質の高いサービスを提供できるようになるなど、運営基盤の強化を行ってきた。

当協会が県民の健康維持・増進に寄与する組織として機能して行くためには、時代に即応した予防医学に対応できる人材を育成し、健診機関としての特性をさらに明確にして、健康のことなら何でも当協会に相談すればよいといわれるような、健康づくりの拠り所として信頼される組織になる必要がある。

これら実現のために、県、医科大学、県医師会などのご指導のもと、市町村、各医療保険者、関係団体等と協力・連携を図りながら、低迷している特定健診やがん検診の受診率向上など、より公益性の高い事業を展開するため以下の項目について積極的に取り組んだ。

- (1) 県民の健康づくりを通じた復興・創生への支援
- (2) 特定健康診査及びがん検診等の受診率向上を目的とした健康増進・普及啓発活動の推進
- (3) 県民の要請に応える健診・検査事業の展開
- (4) 特定保健指導の拡充と各種健康づくり事業の展開
- (5) 人間ドックの拡充とサービス向上
- (6) 県民の快適な生活環境の確保、食の安全・安心の確保、放射能測定業務への積極的取組
- (7) 新情報システム活用による、実施主体、受診者へのサービス向上
- (8) 計画的な施設整備による精度の維持管理

1. 協会の運営

(1) 役員会等の開催

- | | |
|---|-----|
| ① 理事会 | 3 回 |
| ・ 第 9 回理事会（平成 28 年 5 月 24 日） 平成 27 年度事業報告及び決算報告の承認について 評議員会の招集決定について 評議員選定委員会委員の選任について | |
| ・ 第 10 回理事会（平成 28 年 6 月 8 日） 会長及び副会長並びに専務理事の選定について | |
| ・ 第 11 回理事会（平成 29 年 3 月 22 日） 平成 28 年度収支予算の補正について 平成 29 年度事業計画及び予算について 評議員選定委員会委員の選任について | |
| ② 監事会 | 1 回 |
| ・ 平成 28 年 5 月 17 日 | |
| ③ 評議員会 | 1 回 |
| ・ 平成 28 年 6 月 8 日 平成 27 年度事業報告及び決算報告の承認について 平成 28 年度事業計画及び収支予算について | |
| ④ 評議員選定委員会 | 1 回 |
| ・ 平成 28 年 5 月 12 日 | |
| ⑤ がん基金審議会 | 1 回 |
| ・ 平成 29 年 2 月 22 日 | |

(2) 専門委員会の開催

- | | |
|-------------------|-----|
| ① 消化器集団検診精度管理委員会 | 1 回 |
| ② 子宮がん検診精度管理委員会 | 1 回 |
| ③ 肺がん集団検診精度管理委員会 | 1 回 |
| ④ 循環器集団検診精度管理委員会 | 1 回 |
| ⑤ 学校保健集団検診精度管理委員会 | 1 回 |
| ⑥ 乳がん集団検診精度管理委員会 | 1 回 |

(3) 上部団体並びに関係団体との会議及び大会

- ① 公益財団法人日本対がん協会 がん征圧全国大会及び全国支部長会議
(平成 28 年 9 月 8 日・9 日 於 京都市)
- ② 公益財団法人予防医学事業中央会 全国大会及び全国運営会議
(平成 28 年 10 月 20 日・21 日 於 金沢市)
- ③ 公益財団法人結核予防会 東北北海道ブロック会議
(平成 28 年 10 月 27 日 於 仙台市)
- ④ 公益財団法人予防医学事業中央会 東北ブロック会議
(平成 28 年 10 月 7 日 於 山形市)
- ⑤ 東北 6 県検診機関懇談会
(平成 28 年 10 月 6 日 於 山形市)
- ⑥ 公益財団法人日本対がん協会 東北北海道ブロック会議
(平成 28 年 11 月 17 日 於 盛岡市)

(4) 関係機関との会議及び打合せ

- ① 福島県県民健康調査「健康診査」に関する打合せ会議
- ② 市町村・郡市医師会健診事業関係会議
- ③ 健康保険組合連合会合同事務打合せ会議

(5) 平成 28 年度楠賞及び本会永年勤続職員表彰式

(平成 28 年 11 月 25 日 本会会議室)

(6) 平成 28 年度委嘱員（保健師・看護師等）事業功労表彰式

(平成 29 年 2 月 18 日 福島市)

2. 普及・啓発活動

(1) 健康教育

県民がすべてのライフステージにおいて、健康で活力あふれる生活が送れるよう、提携団体や市町村が主催する健康づくり事業等に協賛し、医師・保健師・管理栄養士・運動指導士等を派遣するとともに、関係資料の提供や啓発資材の貸し出しを行い、健康に関する思想の普及・啓発活動に努めた。

<健康教育研究会>

平成 28 年 9 月 21 日ビックパレットふくしまにおいて、公益財団法人と

きわ会竹林貞吉記念クリニックの松田徹院長を講師に招き多職種連携によるがん検診向上についての講演を開催した。市町村及び保健所、健康保険組合の担当者をはじめ事業所の衛生担当者を含めた多くの方々を対象とした講演で、広く健康に関する知識の提供と啓発に努めた。

(2) 健康集会

福島県健康を守る婦人連盟との共催で、県内4方部（福島市、石川町、会津坂下町、いわき市）で各地区婦人会組織を対象とした健康集会を開催した。

(3) 街頭キャンペーン

「結核予防週間」と「がん征圧月間」にあわせて、結核とがんの予防思想普及・啓発のため、「福島県健康を守る婦人連盟」と連携し、いわき市で街頭キャンペーンを実施した。

(4) 広報・普及事業

① 「結核予防週間」、「がん征圧月間」、「健康増進普及月間」に合わせ、新聞などの広報媒体を通じて、疾病予防に関する知識の普及に努めた。

また、収集したデータを基に分析した研究成果を、ホームページにおいて広く一般に公表した。

② 平成28年9月10日から2日間にわたり、福島市のとうほう・みんなのスタジアムで開催された「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016 福島」に参加し、骨密度測定や展示ブースの設置、さらには参加者が横断幕を持って歩き続けることによる、がん検診受診率向上のための普及・啓発活動を行った。

(5) 共催事業

① 平成28年5月8日に福島市東口駅前広場で、初開催となった福島市主催の「福島市ピンクリボンキャンペーン」に参加し、リーフレット及び啓発グッズを配布し、乳がんの早期発見・早期治療の重要性を啓発した。

- ② 平成 28 年 6 月 16 日から 2 日間にわたり、当協会に事務局のあるしゃくなげ会（子宮がん治癒者の会）が加入している「全国よろこびの会総会」を会津若松市御宿東鳳で開催し、医師による講演等を行い、がんの予防、早期発見・早期治療の重要性を啓発した。
- ③ 平成 28 年 10 月 1 日から 2 日間にわたり、郡山市ビッグパレットふくしまで開催されたチャレンジふくしま県民運動推進協議会主催の「チャレンジふくしま県民運動フェスタ 2016」等に参加し、骨密度測定や乳がん検診自己検診法のブースを出展し、健康情報の普及啓発を行った。
- ④ 平成 28 年 10 月 22 日にいわき市平体育館・平市民運動場で開催された福島県 保健福祉部健康増進課主催の「がん予防・がん検診の“集い”」に参加し、キャッチフレーズ表彰式では、当協会職員が応募した「がん検診 早く見つけて “治す時代（とき）”」が最優秀賞を受賞した。
- ⑤ 平成 28 年 10 月 23 日に福島県医師会館で開催された福島県医師会主催の「健康づくりフェスティバル」に参加し、健康測定コーナーや健康相談コーナーを開いた。
- ⑥ 平成 28 年 10 月 23 日に郡山市の星総合病院メグレスホールにて開催された「ピンクリボン in 郡山 2016」に参加し、マンモグラフィ搭載乳がん検診車の展示により普及啓発を図った。

3. 県民健康調査「健康診査」の実施

東日本大震災後、福島県及び福島県立医科大学が実施する県民健康調査の「健康診査」に協力し、関係団体との連携を密にすると共に、避難区域等住民に対して健康診査を実施した。また、同時に県内医療機関で実施している「健康診査（個別健診）」の結果処理や電子データの作成に協力した。

4. 健（検）診・検査事業

疾病の予防、健康維持増進を願う県民の要望に応えるため、県、市町村、事業所等からの委託を受けて健（検）診・検査を実施した。

特定健診、特定保健指導では、市町村国保、共済組合、健康保険組合等と連携を図りながら精度の向上を図るとともに、受診率の向上等に努めた。特に、昨年度から本格的に取り組んだ推定食塩摂取量検査は、渉外活動の結果19市町村から21市町村となり、職域も含めて29,000名に実施した。

昨年度から巡回健診に導入した新情報システムが安定的に運用され、受付作業がスムーズかつ正確になり、結果通知の納期短縮や請求事務のスピーディな処理に努めた。

がん検診においては、関係機関との連携を図り受診率や利便性の向上に努めてきたが、胃がん検診においては、昨今の内視鏡検査の普及に加え、厚生労働省による有効性評価に基づく胃がん検診ガイドラインの変更による開始年齢の引上げや検診間隔の隔年化の影響などにより、受診者数が減少した。また、無料クーポンが縮小された子宮がん検診においても受診者数が減少傾向にある。しかし、著名人が罹患し話題になった乳がん検診においては、前年度に引き続き受診者数が増加した。大腸がん検診においては、行政と協同し追加健診等により受診勧奨に努めたが、受診者数の増加には至らなかった。

また、平成27年12月に厚生労働省よりストレスチェック制度が施行され、当協会においても平成28年度よりストレスチェック検査を本格的に導入し、渉外活動の結果23団体3,100名に実施した。

| | (28年度実績) | (27年度実績) |
|----------|----------|-----------|
| (1) 結核検診 | | |
| ① 学校保健 | 19,285人 | (19,137人) |
| ② 地域検診 | 80,214人 | (78,527人) |
| ③ 労働衛生 | | |
| ア 間接撮影 | 16,307人 | (15,281人) |
| イ 直接撮影 | 440人 | (688人) |
| ④ 精密検診 | | |
| ア 精密検診 | 0人 | (1人) |
| イ 直接撮影 | 0人 | (3人) |

| | | |
|---------------|----------|------------|
| (2) 胃がん検診 | | |
| ① 地域検診 | 45,517人 | (49,952人) |
| ② 労働衛生 | 35,901人 | (37,667人) |
| (3) 子宮がん検診 | | |
| ① 子宮頸がん車検診 | | |
| ア 地域検診 | 20,802人 | (19,933人) |
| イ 労働衛生 | 4,719人 | (4,259人) |
| ② 子宮がん施設検診 | | |
| ア 地域検診 | 46,140人 | (47,902人) |
| イ 労働衛生 | 1,356人 | (1,260人) |
| ③ 子宮体がん施設検診 | 89人 | (128人) |
| ④ 子宮がん施設精密検診 | | |
| ア 組織診検査 | 598人 | (553人) |
| イ 細胞診検査 | 1,779人 | (1,629人) |
| (4) 肺がん検診 | | |
| ① 地域検診 | | |
| ア 肺がん検診 (喀痰) | 6,299人 | (6,322人) |
| イ 肺がん検診 (肺野部) | 117,001人 | (118,382人) |
| ② 労働衛生 | | |
| ア 肺がん検診 (喀痰) | 2,021人 | (2,039人) |
| イ 肺がん検診 (肺野部) | 59,093人 | (59,651人) |
| (5) 乳がん検診 | | |
| ① 地域検診 | 19,334人 | (18,636人) |
| ② 労働衛生 | 3,172人 | (2,793人) |
| (6) 大腸がん検診 | | |
| ① 地域検診 | 83,744人 | (84,074人) |
| ② 労働衛生 | 41,136人 | (41,359人) |
| (7) 特定健康診査 | | |
| ① 特定健康診査 | 84,043人 | (85,714人) |
| ② 特定保健指導 | 766人 | (785人) |
| (8) 骨粗鬆症検診 | | |
| ① 地域検診 | 12,838人 | (11,609人) |
| ② 労働衛生 | 1,320人 | (1,341人) |
| (9) 臨床検査 | | |
| ① 学校保健 | | |

| | | | |
|---------------|--------------|----------|------------|
| ア | 寄生虫検査 | 4,223件 | (79,488件) |
| イ | 尿検査 | 151,021件 | (153,916件) |
| ウ | 心電図検査 | 74,231件 | (72,464件) |
| エ | 血液検査 | 24,578件 | (29,131件) |
| オ | その他の検査 | 15,585件 | (15,604件) |
| ② 地域検診 | | | |
| ア | 血液検査 | 211,740件 | (216,147件) |
| | P S A検査 | 30,447件 | (29,974件) |
| イ | 健康診査（含生活機能） | 37,638人 | (37,092人) |
| ウ | 県民健康調査（健康診査） | 31,440件 | (34,990件) |
| エ | その他の検査 | 97,006件 | (102,482件) |
| ③ 労働衛生 | | | |
| ア | 心電図検査 | 61,673件 | (61,386件) |
| イ | 眼底検査 | 40,687件 | (40,957件) |
| ウ | 尿検査 | 41,542件 | (40,813件) |
| エ | 血液検査 | 219,519件 | (217,956件) |
| オ | 健康診断 | 74,139件 | (73,899件) |
| カ | 血圧測定 | 36,555件 | (36,244件) |
| キ | 聴力検査 | 51,610件 | (50,811件) |
| ク | 健康保持増進事業 | 55件 | (947件) |
| ケ | その他の検査 | 118,121件 | (110,712件) |
| ④ 特殊健診 | | | |
| ア | 有機溶剤健康診断 | 8187件 | (7,124件) |
| イ | 鉛健康診断 | 502件 | (554件) |
| ウ | じん肺健康診断 | 326件 | (261件) |
| エ | 騒音健康診断 | 675件 | (677件) |
| オ | VDT健康診断 | 4,344件 | (4,567件) |
| カ | その他の検査 | 4,625件 | (3,972件) |
| ⑤ 保菌検査 | | | |
| | | 16,712件 | (15,972件) |
| ⑥ 医療機関からの受託検査 | | | |
| ア | 一般臨床検査 | 8,079件 | (8,091件) |
| イ | 病理組織診検査 | 2,084件 | (2,220件) |
| ウ | 細胞診検査 | 25,467件 | (25,120件) |
| ⑦ 母子保健 | | | |
| ア | 先天性代謝異常等検査 | 16,709件 | (17,133件) |

| | | |
|--------------------|--------|----------|
| (10) 口腔健康診査（歯周病検診） | | |
| ① 地域検診 | 601人 | (574人) |
| ② 労働衛生 | 8人 | (7人) |
| (11) 健康づくり事業 | | |
| ① 健康づくり事業 | 119件 | (127件) |
| ② 総合健康管理受託事業 | 8件 | (8件) |
| (12) 理化学分析事業 | | |
| ① 水質検査 | 8,467件 | (8,716件) |
| ② 大気測定 | 556件 | (509件) |
| ③ 食品検査 | 8,879件 | (9,046件) |
| ④ 環境衛生 | 5,597件 | (5,736件) |
| ⑤ 環境調査 | 2件 | (3件) |
| ⑥ 作業環境測定 | 217件 | (209件) |
| ⑦ 放射能測定業務 | 4,416件 | (3,255件) |

5. 複十字シール運動

結核予防思想の普及と、結核及び肺がんの根絶を目的とした事業資金確保のために、関係機関の協力を得て「複十字シール募金運動」を展開し、下記の成果を得た。

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 運動期間 | 平成 28 年 8 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日 |
| 募金実績額 | 2,845,345 円 |
| (募金目標額 | 3,500,000 円) |

6. がん基金事業

がん基金事業として、がん予防対策のための思想普及・啓発事業（啓発冊子の作成、新聞広報等）及びがん予防思想普及団体への助成を実施した。

なお、平成 28 年度末におけるがん基金造成額は、267,645,587 円である。

7. 総合健診センターの運営

人間ドックや協会けんぽの生活習慣病健診および婦人科検診を実施し、さらに人気の高い当施設における市民健（検）診の受診可能日数を拡充するなど健（検）診内容の充実を図り、地域住民、被保険者および被扶養者の健康保持・増進の支援

に努めた。また、乳腺外来を始めとする各種専門外来による二次精検を積極的に行うとともに、最新の 80 列マルチスライス CT 装置を導入し、3 次元画像による大腸 CT 検査（仮想大腸内視鏡検査）を実施した。新情報システムは導入以来 3 年が経過し、画像による結果説明など、受診者から好評を得ている。

| | (28 年度実績) | (27 年度実績) |
|---------|-----------|-----------|
| ① 人間ドック | 3,662人 | (3,553人) |
| ② 結核検診 | 10人 | (14人) |
| ③ 二次精検 | 715人 | (823人) |
| ④ 健康診断 | 5,309人 | (5,140人) |
| ⑤ 予防接種等 | 2,331人 | (2,865人) |

8. 健康管理・健康支援事業

各種集団検（健）診事業における事後管理指導については、要精密検査者への受診勧奨に重点を置き、市町村保健師はもとより、特に職域の検（健）診担当者等と連携し、更なる検（健）診受診率及び要精密検査受診率の向上を目指し、受診勧奨を行った。また、精密検査の統集計を迅速に行い、県、市町村、事業所の求めに応じ適切な資料の提供をした。

特定健診で階層化された対象者に対する特定保健指導は、新規の各保険者への働きかけを行い、新たに 3 市町村国保及び 1 事業所の保健指導を受託し、計 16 市町村国保及び 13 事業所を実施した。

また、当協会の特色を活かした特定保健指導の周知を積極的に行う他、各保険者とともに実施率を上げるための対策に努めた。

健康支援事業としては、新たに小野町より健康栄養教室事業を受託し、健診時に血圧測定、脂質・血糖検査で要指導と判定された者、治療中で医師が必要と判断した者の 98 名に対し、計 8 回の講演及び調理実習を行い好評であった。

また、健康相談及び保健・栄養・運動の各種講演やイベントでのスタッフ派遣などの要請に応じた。最近の傾向としては、メンタルヘルス関係の講演依頼が増えてきており、ふくしま自治研修センターによる「心と体の健康」についての研修を受託し、県内地方公共団体の新採用職員 735 名に対し、健康管理についての講演を行った。

その他、福島県が実施する地域啓発活動研修事業である「検診からはじまる健康安心復興事業」に協力し、福島県がん検診推進員の育成を推進するとともに、がん検診の受診率向上に努めた。

9. 調査研究・研修

職員の資質向上と技術の習得のため、全国規模の技術研修会・大会、学術研修会等に積極的に参加させるとともに、学会発表等を行い資質の向上と専門技術の研鑽に努めた。

10. 施設・設備の整備

(1) 建物の整備

| | |
|--------------|-----|
| 本館消火栓ポンプ改修工事 | 1 式 |
| 本館非常用発電機更新工事 | 1 式 |

他 7 件 10,675,538 円

(2) 構築物の整備

| | |
|---------------------|-----|
| 会津地区センター受変電設備改修工事 | 1 式 |
| 県南地区センター駐車場屋外水栓設置工事 | 1 式 |
| 駐車場フェンス交換工事 | 1 式 |

2,958,267 円

(3) 集団検診車及び車両関係の整備

| | |
|----------------------|-----|
| 胸部デジタルX線検診車「ひまわり30号」 | 1 台 |
| 胸部デジタルX線検診車「ひまわり31号」 | 1 台 |
| 検体搬送車 | 1 台 |

他 4 件 71,860,374円

(4) 検診・検査機器等の整備

検診・検査機器の更新及び精度の向上、効率化を図るための什器備品等の整備を図った。

| | |
|-----------------------------------|-----|
| 電話設備交換工事 | 1 式 |
| 顕微鏡 | 2 台 |
| COPD肺活量計 | 3 台 |
| 理化学分析システムハードウェア更新及び 現行システム移設費用 | 1 式 |
| 無散瞳デジタル眼底カメラ | 3 台 |
| 解析装置付心電計 | 3 台 |
| デジタルX線TV画像システム | 1 式 |
| シアン臭素酸陰イオン界面活性剤測定システム | 1 式 |
| ロータリーエポレーター | 1 台 |
| 胸部X線デジタル撮影システム関連機器 | 1 式 |

他 2 3 件 57,326,434円

(5) ソフトウェアの整備

新情報システムカスタマイズ費用

結果通知システムプログラム修正

請求システムプログラム修正

7,267,000 円

平成28年度がん基金特別会計事業報告について

1. がん予防思想の普及啓発事業

(1) テレビ広報

一般社団法人福島県医師会がん啓発事業への助成

(2) 新聞広報

がん予防思想普及啓発について新聞紙面での周知

1) がん征圧月間特集（民報・民友）

2) 予防思想普及特集（民報・民友）

※肺がん検診啓発特集記事の掲載

(3) がん検診受診勧奨啓発冊子及び資材の作成・購入

1) がん予防啓発用冊子及びリーフレットの購入

2) 健康教育ライブラリー等普及啓発資材

3) がん検診受診勧奨カレンダー

4) 健康に関する講演会及び啓発活動等における配布物

(4) がん予防のための各種イベント等における普及啓発

1) 福島市ピンクリボンキャンペーンへの参加

2) 福島市健康フェスタ 2016 への参加

3) リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016 福島への参加

4) チャレンジふくしま県民運動フェスタ 2016 への参加

5) がん検診受診勧奨街頭キャンペーンへの参加

6) がん予防・がん検診の集いへの参加

7) ピンクリボン in 郡山 2016 への参加

8) 福島県医師会第 16 回健康づくりフェスティバルへの参加

9) よしもと×ふくしま みんなでチャレンジ大運動会！への参加

2. がんに関する調査・研究に対する補助事業

(1) 郡市医師会がん研究事業への助成

(2) 郡市医師会で開催されるがん研究会、講演会等への助成

3. がん予防思想の普及啓発を行う団体等に対する補助事業

(1) 日本公衆衛生協会福島県支部への助成

(2) 福島県健康を守る婦人連盟への助成

4. がんに関する情報提供

統計資料「がんのしおり 2015」の購入

平成28年度 保健衛生褒賞基金特別会計について

1、岩永賞

「岩永賞」は、本会初代会長であった故岩永幾太郎氏のご遺志による基金をもとに設けられたもので、生活習慣病（成人病）予防事業の推進に顕著な功績があった方に贈られる。

今年度は、郡山市医療介護病院長の原寿夫先生が受賞した。

原先生は、郡山医師会副会長及び福島県医師会常任理事を歴任され、郡山市医療介護病院長として広く住民の安心・安全・健康に寄与し、公衆衛生事業の発展に多大な貢献をされた。

平成28年10月18日（火）杉妻会館で開催された、健康ふくしま21推進県民大会表彰式において表彰された。

2、楠賞

「楠賞」は、故楠信男当協会元会長のご遺志による基金をもとに設けられたもので、地域の保健医療や公衆衛生の分野において、献身的な活動をした方に贈られる。

今年度は、当協会の嘱託医師である佐久間正先生が受賞した。

佐久間先生は、平成20年6月より嘱託医師として勤務され、本会で実施している地域住民及び事業所検診事業に従事し、県北地区のみならず、県南地区、会津地区、いわき地区と県民の健康保持に多大な貢献を頂いた。

表彰式は、平成28年11月25日（金）福島県保健衛生協会4階会議室において行われ、当協会の鈴木仁会長が佐久間先生へ感謝の言葉を述べ、賞状と共に記念品を贈った。